

## 新年を迎えて

年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

今日、グローバル化、科学・情報技術の革新は止まることを知らず、人工知能の飛躍的な進化により、我々の暮らしが今まで以上に便利になる様々なものやサービスが生み出されております。

一方、教育では、高等学校教育及び大学教育、両者を接続する大学入学選抜の三位一体の改革が引き続き議論されており、特に大学入学選抜改革につきましては、現中学三年生が高校三年生になる平成三十二年年度から、従来の「大学入試センター試験」に代わり、「大学入学共通テスト」が導入され、一部記述式問題の導入要領では、グローバル化への対応として、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語四技能を総合的に育成できるよう、小学校高学年から英語が教科化されることとなり、本年四月からは、二年間の移行期間が始まり、先行実施が可能になります。このような状況を踏まえ、府教育委員会といたしましては、小学校での英語教育に向け、研修などを通じて担当教員の英語力及び指導力の向上を図るとともに、校種間での連携・協働により、小学校の段階から高等学校までを見通した英語教育を充実させ、子どもたちに総合的な英語力をはぐくむことができるよう努めて参ります。

また、特別支援教育においても新学習指導要領が公示され、「全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解することが不可欠である。」とされています。特別支援教育の一層の理解とともに、一方で切れ目ない連携が提唱されています。インクルーシブ教育システムの構築を推進するため、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校と通級指導、特別支援学級、特別支援学校への横の連携を図って参ります。

こうした中、学校教育が教職員の長時間勤務に支えられている状況は既に限界に近いところに来ており、教員は自己研鑽の余裕もなく、教職員の働き方改革は喫緊の課題であります。昨年十一月には、学校運営・指導体制の構築、専門スタッフの配置促進、部活動運営の適正化など教職員の働き方改革を総合的に推進するに当たつての重点事項を決定したところであり、府教育委員会として引き続きしっかりと取り組んで参ります。また、こうした取組を進める上で、保護者や地域住民の方々の御理解、御協力が不可欠であります。昨年十月には、府内のPTA団体の方々から教職員の働き方改革を応援していただく旨の緊急アピールをいただいたところであり、この改革が全府的な取組となるよう、今後も周知、広報に努めて参ります。

さて、いよいよ本年四月には、府内南部地域初となる中高一貫教育校「府立南陽高等学校附属中学校」が開校いたします。学研都市という立地環境を生かしながら、語学力や科学的素養を兼ね備えた、未来を担うトツプリーダーの育成を目指すこととしており、今後は、中高一貫教育校四校での実践を共有し、各校における教育内容の一層の充実を図って参ります。

また、生徒数減少が見込まれる中、魅力ある高校教育を推進するため、府立高校の在り方について検討して参りました。特に、丹後地域については、如何にして、子どもたちの教育環境を維持、そして、その充実を図るかを第一に考え、府立高校に学舎制を導入することとしたところであり、口丹地域については、府立高校の在り方や活性化策について地域の方々の意見を伺いながら検討を進めているところです。今後は、地域創生に取り組み地元市町や企業、大学等とも連携した教育活動を充実するなど、地域のニーズに応える高校教育を展開して参ります。

本年も、市町（組合）教育委員会をはじめ、関係機関とより一層緊密に連携し、子どもたちに「『幸せに』生きる力」をはぐくむことができるよう、多様性の尊重と自尊心の高揚を大切にした教育に取り組み、府民の皆様の御期待に応えられるよう、全力を尽くして参ります。

結びに当たり、皆様のますますの御健勝、御多幸をお祈り申し上げますとともに、京都府の教育の更なる発展に向けて、一層の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成三十年

元旦

京都府教育委員会

教育長 橋本 幸三